



狛江市民の皆様へ

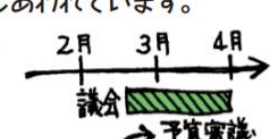
新型コロナウイルスに係る政府方針に沿い、狛江市でも各小中学校の臨時休校等、様々な措置をとらせていただいております。市民の皆様におかれましては大変なご苦勞をされて、またご不自由を感じられていることと存じます。

しかしながら、ウイルスの感染リスク水準を「国全体で下げていく」ためには、地域で生活なさっている市民お一人お一人の皆様のご協力、お力添えをお願いするしかない。私はそう思っております。

暖かく、うらかな春の光が狛江にふりそそぐ日まで。どうか、衛生管理等にも十分ご留意いただき、ご自愛くださいますようお願い申し上げます。

三宅まこと


現在、行われている議会では市の新年度予算が話しあわれています。



わたしはひとり会派お気楽!

議員一人あたりの持ち時間は市のコロナウイルス対応に協力し、今議会だけ40分に短縮しています。

自治体は1年間の収入の見込みと使い道(予算案)をきっちり事前に決めて、その計画に沿って1年間活動します。



家計と一緒?

新年度の子算  
299億  
- 福祉 160億  
- 教育 40億

その予算案は議会で審査・認定されて初めて執行が可能となります。



キリッ!

責任感あるフリ

さて、私は今回の議会で古くて使いにくい図書館や公民館をどうしていくべきか、という疑問をします。



なんで私たちこんなショボイトコでお茶しないといけないのよ(怒)

みんさん、どう思いますか?

狛江市は、数年経つと現在個人市民税等税収が堅調であつても、財源は右肩下がりとなり、福祉のお金が増えしていきます。今後は自治体の管理する建物やインフラは初期投資だけではなく更新や修繕というランニングコストも含めて自治体として経営していきましようよ!というものが要約となります。

さて、現在、狛江市議会は会期中です。令和二年度予算審議の中で、私は、「公共施設マネジメント」という概念を質問させていただきました。この言葉は少々難しく感じられるかもしれませんが、私なりにわかりやすく説明します。

## 公共施設マネジメントが大切。

35万冊もの蔵書が必要なのか? そのアンケートに入っている

さて、市役所隣の市民センター(中央公民館・中央図書館)は、開館から40年以上経過した古い建物です。そんな中、現状を改善していきたい有志の方が「市民センターを考える市民の会」を発足、狛江市と協定を結び、新しい市民センターの在り方を提案されました。現在、市民の会から提案を受けた内容も含めて、総合的に幅広く市民の皆様の声をお聞きするための無作為抽出アンケートを実施中です。(13日まで)

## 市はアンケートを行っています。

しかしながら、実際の市民提案書に目を向けますと希望延床面積(六千㎡超)の根拠とされたのは35万冊もの蔵書が必要という内容です。現状、狛江市中央図書館の延床面積は三千六百㎡、蔵書は17万冊です。つまり、実に倍の規模となる計算です。

「市民の会からの資料」を拝見しますと、2つの基本コンセプトが明示されています。ひとつは、「スモールイズクール(小さいまの良さを生かしたまちづくり)」。ふたつ目は「サードプレイス(自宅・職場以外の第三の場所)です。なるほど、今風のコンセプトで私も納得です。

## 本が迫つてこない図書館。

それでは公共施設マネジメントの文脈の中で、狛江に相応しい図書館とは何か。裏面での考え方を説明しますのでお付き合ってください。

これは以前の議会で、イタリアの公共図書館を紹介した書籍を引き合いにして議論されたキーワードです。当時の狛江市答弁では、「蔵書の数だけではなく、空間構成や活動プログラムにより、多くの市民の方が行きたくなる、または居たくなる滞在型図書館の事例」と解釈されました。

## 本が迫つてこない図書館。

# 狛江らしい図書館像は? 新年度予算審議で質問します。

とだけ足を延ばせば、87万冊もの蔵書を所有する調布市中央図書館があり、狛江市民も自由に貸し出しを受けることができます。

# 狛江らしい図書館を実現するために必要な6つの視点

(※)「荒川区ゆいの森あらかわ」「北区中央図書館」「いたばしポローニャえほん館」「大和市文化創造拠点シリウス」「大和市中央林間図書館」「武蔵野プレイス」「調布市中央図書館」を視察いたしました。

## 1 そもそも、コンパクトな狛江市はどこへ行くにも距離が近い。



狛江市と調布市の人口、面積の比較をしますと、8.4万人と6.4%㎡に対し、24万人と21.6%㎡、人口で2.9倍、面積で3.4倍となります。左のイラスト図でもわかるように、狛江市は調布市の中にスッポリと入る大きさしかありません。

地方が衰退する中、行政機能を中心に寄せていく「コンパクトシティ化」の動きはよく知られています。行政の施設があちこちにあるよりも、狭い範囲に施設数を絞った方が、行政コストが安く済むからです。これは、市民の方にとっても、どこへ行くにも距離が近くて済むということです。

さて、狛江市の市民センターには、図書館と公民館両方の機能を持たされています。慣れている方は嫌がるかもしれませんが、面積の狭い狛江市であれば分散していくことも検討していく必要があります。私は、ギュッと狭い施設にゴチャゴチャしているより、スッキリしているほうが好きです。

## 2 市財政は10年後から要注意。学校施設対策でコスト増に。

狛江市の財政状況は、ここ数年間の厳格な財政規律運用により、基金(市の貯金)が積み増されて、市債(市の借金)が減る傾向になってきています。

しかしながら、新年度予算での基金残高37億に対して、市債残高は195億と、依然として厳しい状況にあります。借金返済の果てしない道が続きます。

更に下図は市の公共建築物、向こう20年間の整備費推移のグラフです。前半10年間の年平均・10億円から、後半10年間で年平均・20億円にコスト増加と推計されています。この理由は主に昭和40~50年代に建てられた小中学校施設が一旦に建替時期を迎えるために費用が増大するものです。



資料：狛江市公共施設等総合管理計画

## 3 幅広く市民が使用するために BOOKS×CAFÉ の必要性。

公共施設に税金を使うからには、市民が世代を問わず幅広い層に利用されるようになることが必要です。そのためには現在、利用されていない方々にとっても図書館に行ってみよう、ハードルを下げていかなければいけません。理屈ではなく、人が気軽に集うことができるカフェが必要です。

私は先般、公共施設マネジメントの研究で有名な南学教授(東洋大学)の講義を受講しました。その中で印象的だったのは、「昨今の公立図書館では「飲食ができない」と人は来ない」というお話しでした。また、施設稼働率という指標も重要というご指摘です。だからこそ、図書館一階には気の利いたカフェが必要。右写真は公立図書館への民間カフェ事業者の参画例。是非、利用してみたい!



図書館併設の民間カフェ(左:ゆいの森、右:中央林間)

## 4 そもそも「本が迫ってくる」ような図書館には行きたくないですね。

表紙で「本が迫ってこない図書館」のお話しをしました。単に図書館を新しくするのではなく、多くの市民の方が集まれるように公立図書館を「屋根のある広場」として位置付けていく、そんな空間デザインが必要です。各地の図書館を視察しましたが、どこも本棚が迫ってこないことで、居心地の良い空間が実現していました。狛江市中央図書館に、「市民の会」が要望した35万冊もの蔵書は全く必要ありません。必要なのは、市民の幅広い層が行きたくする「広場」です。



お一人様にもゆったり(中央林間)

## 5 絵本を売りにした図書館こそ、多世代が交流できる拠点に。

絵本って、子育て世代向けだけのものでしょうか?私は明確に違うと思います。これは「ゆいの森あらかわ」を視察した際に確信に変わりました。同館一階には「えほん館」があります。全ての世代に向けて絵本の魅力を発信したいという思いから、あえて「こども図書館」という言葉を使わずに命名されたそうです。また、絵本に造詣の深い作家・柳田邦男氏が図書館事業に参画していますが、氏の言葉「絵本は人生に三度」が秀逸です。それは、①自分が小さいとき、②親になった時だけでなく、③老いを意識した際に絵本が大切になってくるということ。なるほど深い。

また、デジタル時代だからこそ、アートな絵とか質感、肌触りが必要だと思います。税金を使って蔵書を購入するからこそ、いつの時代でも普遍性のある絵本が相応しい、そう思います。シニアの読み聞かせ事業も盛んな狛江らしいアプローチです。



柳田邦男さんの言葉(ゆいの森)

絵本の陳列(いたばし)

## 6 大人(一般書)と子供(絵本・児童書)のスペースは別の場所にすべき。

ニコタマの萬屋家電に、子どもさん向けの遊具を販売するポーンランド社が入っています。同社は地方自治体との連携を進めており、大和市シリウスのあそびスペースも運営しています。こうした子供さんがのびのび動き回れるスペースが、最近の図書館にはどんどん設置されています。

狛江の中央図書館でも児童書奥に読み聞かせスペースがありますが、いかんせん一般書との距離が近すぎます。実際に新しい図書館を視察してみると、必ずと言っていいほど一般書と絵本・児童書スペースは離れてレイアウトされています。利用者の立場からしたらシニア世代と子育て世代がお互いに気を遣うより、気兼ねなく利用したいと思うのが人情だと思いますが、いかがでしょうか?



あそびスペースと託児所で親子ともにのびのび(左:北区、中:ゆいの森、右:シリウス)

ご意見・ご要望は、三宅まこと公式ホームページの入力フォームからお願いします。

三宅まこと

